

2018年9月19日研究報告

特定非営利活動法人遠隔地域集落の自立可能性に関する実験的研究推進機構
「世界的にすごい」もの！があるいすみ鉄道に夢を描く仮想実験的研究

いすみ鉄道にある「世界的にすごい」もの！とは？

→いすみ鉄道は全長 26km の短いローカル線であるにもかかわらず、沿線に救急指定病院をはじめとして入院可能な医療機関が 4 つもある。

○いすみ医療センター：入院ベッド数 144 床。地域の中核となる救急指定総合病院

○川崎病院：入院ベッド数 26 床の総合病院

○小高内科外科：入院ベッド数 19 床の有床診療所。元、小高病院。

○大多喜病院：入院ベッド数 363 床の内科、精神科病院

→いすみ鉄道は入院可能な医療機関が大変充実した、世界でも有数の路線といえる。

さらに、沿線に三育学院大学看護学部という医療分野の教育機関もある。

世界一の医療鉄道としての夢を実現するには具体的にはどんなことが考えられるか？

→各病院および医療関連施設に最寄駅を設置する。

救急指定病院いすみ医療センター駅（国吉駅から改称）

川崎病院駅（屋根なし片面ホーム無人駅新設）

大多喜病院駅（屋根なし片面ホーム無人駅新設）

三育学院大学看護学部駅（久我原駅から改称）

→夷隅医師会と運行体系を共同開発し、勝浦市、御宿町住民の通院利便性も向上へ。

城見が丘ニュータウンにある「世界的にすごい」ものは？

→別荘地などで永住する場合、とくに高齢になった場合はすぐ近くに入院できる医療機関が複数あることは非常に大きな安心につながる。城見が丘は、近隣に世界にも例がないくらい多くの入院可能な医療機関を有する、永住に適したすごいニュータウンである。

以上は現在のいすみ鉄道および沿線地区が有する「世界的にすごい」もの。

【未来は？】

さらに未来のいすみ鉄道が有する「世界的にすごい」ものとしてどんなものが考えられるか？

→大多喜⇄上総中野間に「走行中リアルタイムワイヤレス給電モーター鉄道」を設置するための特区を申請する。歩行者もいる道路に強力な給電コイルを設置する自動車とは異なり、鉄道軌道であれば強力な給電コイルを設置しても「軌道内に人は立ち入らない」という鉄道ならではの人体への安全性を最大限に担保することで、単なる実験列車ではなく世界に先駆けて「ワイヤレス給電モーター鉄道定期旅客運用」を実現することも夢ではない。

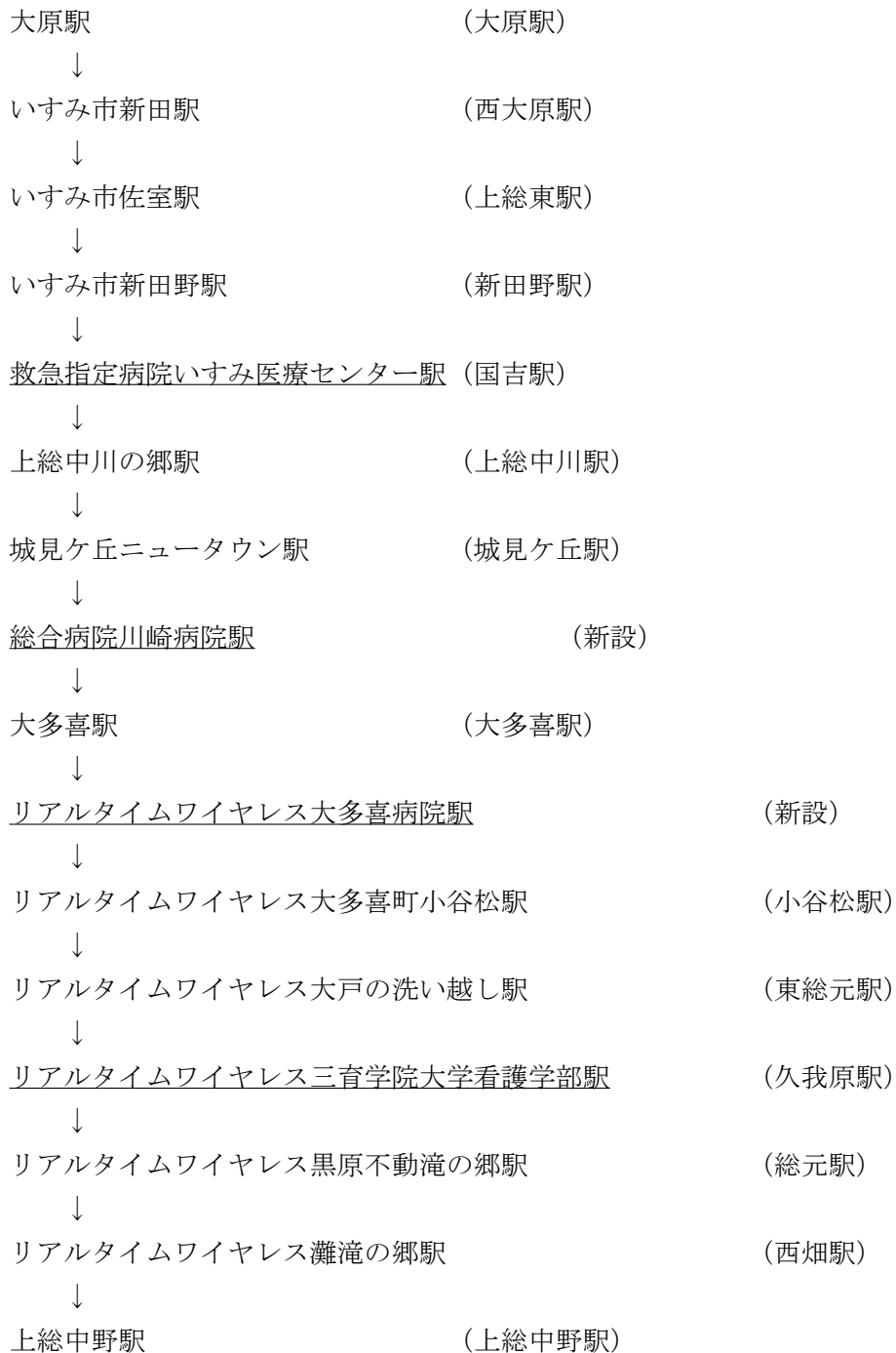
→当初目標は「停車中ワイヤレス充電モーター鉄道」であっても、その先に「走行中リアルタイムワイヤレス給電モーター鉄道」を目指す。

→電力供給はたとえば落花生廃棄殻バイオマス燃料によるスターリングエンジン発電等により

原材料を含めて地域自給を目指し、その先の遠隔地域自立可能性を追及する。

→世界にさきがけてエネルギー自給も含めて完全エネルギー自立ワイヤレス給電モーター鉄道定期旅客運用が実現すると、いすみ鉄道は未来においても世界レベルのさらにすごいものを有する鉄道であり続けることが可能かもしれない。

世界的すごさを表現する路線および仮称駅名は？



→沿線住民：こんなに医療が充実して安心して未来にも夢がある鉄道は、みんなに自慢したい！